

令和元年度学校評価（年度末評価）

令和2年2月まとめ

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 学習指導方法の工夫改善に努め、生徒の学力の伸長を図るとともに、望ましい勤労観、職業観を育成させ、進路目標の実現に努める。 2 生徒の規範意識を高め、命と人権を重んじる道徳心と、他人を思いやる真心を涵養するとともに、健全な体の成長を促す。</p>			
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>	<p>年度末評価(評価結果と課題)</p>
<p>総務部</p>	<p>1 保護者との連携 2 有意義な学校行事</p>	<p>1 ホームページの活用 2 PTA活動の充実 3 メール配信システムの利用 4 厳粛で清新な儀式的行事</p>	<p>1 HPを活用し、学校行事などを迅速に伝える。 2 PTA活動を通じて、保護者同士の良好な関係を築くとともに、学校との連携を図る。 3 メール配信システムを有効に活用できるように、登録を依頼する。 4 有意義な変化や折り返しを付け、新しい学校生活への動機付けとする。</p>	<p>1 学校行事や部活動など多くの写真をHPにアップできた。 2 PTA活動や学校行事には多くの保護者の方が来校され活気のある活動ができたとともに、友好な関係も築くことができた。 3 緊急時に備えて、今後もメール配信システムへの登録をお願いしていく。 4 学校生活において、儀式的行事が有意義な変化や折り返しになるように今後も努めていく。</p>
<p>教務部</p>	<p>組織として、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業と評価手法の検討を開始する</p>	<p>1 生徒の実態と各教科の特性を踏まえながら、主体的・対話的で深い学びを実現するための課題を分析する。 2 推進教員を指定し、実践と検証を蓄積する。 3 蓄積された成果を次年度に引き継ぐことで、次年度中に校内で共有できる環境を整備する。</p>	<p>1 毎週設定されている教科主任会等を通して、生徒の実態と各教科の特性への理解に努める。 2 教務部会の中で、実現するための課題を分析する。 3 教科主任会を通して、推進教員を募り、実行する。 4 各教科会の中で、推進教員より成果報告会を行い、明らかとなった課題の解決を次年度の重点目標とする。</p>	<p>1～3 中間報告の通り、7月までに達成した。 4 年内に各教科会で成果報告会を行った。また、1月14日の教科主任会で各教科の報告内容を共有した。さらに、その内容から「主体的・対話的で深い学び」に関する成果と課題をまとめ、教科主任会と運営委員会で報告した。以上の通り、今年度の重点目標と具体的方策はいずれも達成した。次年度の課題として、この成果をカリキュラム・マネジメントに活用することと、それに資する職員研修の検討を挙げておきたい。</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>1 指導の定着 2 生徒の安全確保 3 いじめ未然防止に係る取組の充実、いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<p>1 遅刻防止指導、身だしなみ指導などについて、全教員による指導の定着を目指す。 2 毎朝の昇降口、雨天時校門での立ち番指導を継続する。 3 防犯に対する意識を高めるとともに通学路の危険箇所についての周知を図り、立ち番指導についてはPTAとも協力して行う。また、事故多発時には即座に現場指導を行う。 4 校門では自転車の傘さし運転防止指導を行う。 5 講話などを通して、生徒に、自分自身が集団で果たすべき義務、責任を理解させる。明確な善悪の価値基準の下、毅然とした態度で日々の指導を行う。 6 日常の生徒観察、健康調査、いじめ、生活アンケート等で情報収集、事案対処に係る各組織の役割を具体化する。また、生徒、保護者にそれを周知する。</p>	<p>1 「指導対応表」に基づく指導を行う。遅刻の繰り返しをなくすために、事後指導を徹底する。 2 生徒に「規律」を持たせるために要所（授業・学年、全校行事等）での身だしなみ指導を継続する。 3 HP等を利用して家庭との連携を図るとともに、「ハザードマップ」や「通学路注意マップ」を生徒に周知して、講話等も利用して啓発に努める。 4 細やかな指導を継続することにより、校内に明確な「正義」と「規律」を確立させる。 5 アンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について毎回検証を行う。 6 事案対処時の事実確認等、初動を丁寧かつ迅速に正確に行うことを心がける。 7 生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりを行う。</p>	<p>1 「指導対応表」に基づき、諸指導を展開することができた。また、状況に応じて、分掌会、学年主任者会等で、各指導規定を柔軟に調整することができた。 2 毎朝の昇降口立ち番指導で、制服の正しい着こなしや生徒観察を継続することができた。 3 今後も継続して、交通ルールやマナーなどの規範意識を高めることが大切である。さらに、講話等を利用して啓発に努める必要がある。 4 職員、PTAの協力で通学路危険箇所での立ち番、自転車の傘さし運転防止指導を行い、生徒の交通安全を意識させることができた。 5 学年主任者会、分掌会、教育相談委員会等で得た生徒情報などを集約し、各学年と連携しながら、生徒の抱える諸問題、生徒間トラブル、いじめに発展しかねない事案を早期に対応することができた。 6 アンケート後の対処の在り方については、今後も継続して検証を進める必要がある。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	年度末評価(評価結果と課題)
進路指導部	1 望ましい勤労観、職業観の育成 2 将来を見据えた基礎力の育成	1 進路目標を具体化させる。 2 キャリア教育を充実させる。 3 進路学習会・補習を充実させる。 4 模擬試験や検定の結果を有効活用する。	1 説明会や講演会などを通して的確な進路情報を提供する。 2 総合的な探究(学習)の時間や看護・保育実習などの探究活動や体験実習を通して勤労観、職業観の育成を図る。 3 生徒の進路意識を高められるように環境整備を行い、積極的な取組を促す。 4 学習活動の成果を模擬試験や検定によって確認し、その後の学習につなげられるように分析・指導を行う。	1 大きな改革の中、適切な時期に情報発信することができた。 2 体験実習については例年通り実施した。探究活動については学年と調整のうえ来年度への課題としたい。 3 掲示板等を利用し、留学についてなど例年以上に発信することができた。 4 適切にフィードバックできるよう、今後とも計画的に行っていきたい。
保健部	心身共に健康で明るく日常生活を営むための基本的な資質・能力を養う。	1 清掃用具の整備と美化委員の活動を活性化させる。 2 臨床心理士を活用し、教育相談委員会の開催を増やすとともに、内容を充実させる。 3 災害発生時における学校対応を周知させる。	1 必要に応じて清掃用具の廃棄または購入をする。また、美化委員による定期的な美化活動を実施する。 2 臨床心理士と円滑に連携するとともに、教育相談委員会を活性化し、その情報を基に当該生徒の支援体制に組織的に取り組む。 3 災害発生時の地域における学校の役割を把握しておくとともに、防災・減災意識の向上を図る。	1 清掃用具の廃棄や新規購入を進めた。年間5回の安全点検を実施し、事務部の協力のもと不備に対応した。 2 教育相談の充実に努めた。増加する保護者・生徒の相談に対応し、学校全体としての連携に努めた。 3 防災訓練や講話の実施により、災害発生時の地域における学校の役割を把握しておくとともに、防災・減災意識の向上に努めた。
特別活動部	生徒の主体的・自主的活動を支援する。	1 生徒会が主体となり、生徒議会を通して、各クラスが文化祭に主体的に取り組めるように促す。 2 特別活動部が、部長連絡会を通して各部活動を統括し、各部の主体的な活動を促す。	1 本年度は生徒会役員選挙への積極的な立候補があり、この雰囲気も大切に、生徒会役員による主体的な活動を促したい。文化祭への取組に関しては、生徒会から生徒議会に発信していく道を確立したい。 2 部活動を特別活動部が統括している体制が少しずつできている。特別活動部が各部長を指導しながら運営していく体制の構築を目指したい。	1 十分とは言えないが、昨年度の文化祭への取り組みよりは、本年度前期の生徒会役員は積極的に文化祭にかかわることができた。生徒会企画の作成、表彰結果の集計、後片付けへの取り組み等、一定の成果があった。 2 部長会議を年3回開催することを確立できた。引き続き特別活動部が部長を指導する機会を増やしていきたい。
図書部	1 読書への関心と図書室利用の向上 2 委員会活動の活性化 3 ICT教育の向上	1 新入生への図書指導を実施し、読書への関心を高める。 2 図書当番、お薦め本の執筆、読書会の実施、ポップ作り、蔵書の整理などを行う。 3 視聴覚機器を整備し、視聴覚教室利用の活性化を図る。	1 新入生への読書指導を実施する。また、随時「図書館便り」を発行して、貸出状況や新着図書情報を効果的に掲載する。 2 図書委員の仕事を機能的に役割分担し、充実した広報を図る。 3 マニュアル化した機器の使い方を、より活用しやすいように工夫する。	1 新入生への指導は概ね昨年度からの計画通り実施したが、一クラスごとに図書館に集めることの効果には疑問が残る。より効果的な実施方法を模索していきたい。「図書館便り」については計画通り発行できたが、次年度は内容を精選してより読み応えのあるものにしていきたい。 2 図書委員は配架や廃棄など図書館業務によく従事してくれた。 3 現状維持で手一杯だった。次年度以降は、タブレットパソコンなどの最新機器への対応も含めて、より活用しやすいよう工夫していきたい。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	年度末評価(評価結果と課題)
1 年	1 基本的生活習慣の確立 2 基礎学力の定着 3 自主性を育てる	1 心と身体の健康に留意し、規則正しい生活を心がけさせる。 2 充実した授業を展開し、家庭学習の定着を図る。 3 自ら考え行動できる生徒の育成を図る。	1 欠席・遅刻をする生徒や様子が気になる生徒については職員間で連携を図り、声かけや面談を実施するなど丁寧に対応する。 2 教室の環境を整え、各教科において予復習や課題の提出などについて具体的な指示をする。 3 教員の助言のもと、LTや総合的な学習の時間、学校行事を通じて、生徒自身が多くの体験をし、次に生かすことを学ぶ機会を多く設ける。	1 生徒の様子について、担任会を中心に細かく情報交換を行い、心配される生徒の情報共有が行えた。担任をはじめ学年団の先生で面談の実施や声掛けなど丁寧対応ができた。 2 教室の環境整備については、担任を通じて年間通して指導が徹底できた。また、課題の未完了者については教科担任の指導と並行して指導できた。 3 韓国留学生を受け入れるなど通常授業では体験できないようなプログラムを提供できた。また、総合的な探究の時間にグループワークを行い、相互理解、表現力の向上を図ることができた。
2 年	1 基本的生活習慣を維持させる 2 自ら学び、自ら行動する力をさらに伸ばす	1 学校中心の生活ができるように促す。 2 修学旅行・学校行事・部活動などに積極的に関わるようにさまざまな機会を設ける。 3 模擬試験を利用し、学習のきっかけとする。	1 様子が気になる生徒については、担任を通して、担任会・学年会で情報を共有し、場合によっては個別に対応するように心掛ける。 2 修学旅行では、分散研修の計画を立てさせるなど、生徒が自ら考え行動できるように促す。また、学校行事や部活動においても昨年度の反省を活かし活躍できるように指導する。 3 模擬試験を活用し大学入試を意識した学習ができるように指導する。また、進路について考えさせる機会を年間を通して設ける。	1 様子が気になる生徒に対する情報を学年団で共有できるように努めた。担任の先生を中心に個別対応もできた。 2 修学旅行や文化祭の準備を計画的に取り組みせ、生徒が活躍できる場を提供できた。 3 模擬試験前に事前学習に取り組みせ意識を高めさせた。しかし、模擬試験後の、反省と次への課題を考えさせる機会は十分ではなかった。
3 年	1 基本的生活習慣を維持させる 2 より高い進路目標の設定と学力伸長を援助する	1 総学の時間やLTを活用し、記憶の定着がよい朝型へのシフトを促す。また、朝の補習を企画する。 2 教材研究の時間確保のために、学年で役割分担するとともに、互いに協力する体制を整える。 3 総学の時間を活用し、自らの生活を見直す機会を設け、改善させる。 4 模擬試験の結果から、自己分析をさせ、苦手科目の克服に努めさせる。また、面談の回数を多くし、生徒の現状を把握しつつ適切な助言を行う。	1 生活リズムを朝型に変更させ、深夜までの勉強による睡眠不足にならないよう指導する。 2 学習に集中できる環境作りをするとともに、生徒の知的な好奇心を刺激する授業を展開する。 3 勉強時間を確保するために、スケジュール管理を意識させ、限られた時間を有効的に活用させる。 4 進路実現のために、自己分析を行い個々の特徴に合わせた進路指導を心がける。	1 基本的生活習慣を確立することはできたが、3学期頃には、欠席(体調不良)遅刻(寝坊)が目立ってしまった。 2 教室整備については、学年団で取り組むことができた。しかし、学年団内の役割分担はうまく機能せず、一部の教員に偏ることもあった。 3 総学の時間を活用し、自らの生活を振り返ることはできたが、改善するまでには至らなかった。 4 模試の結果から、自分の苦手を知ることはできたが、その苦手をどのように改善するかという点でサポートが不十分なことがあった。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 学習指導方法の工夫や研究の推進。 2 望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実。 3 いじめ防止基本方針に基づく取組の実施。 4 いじめへの対応など命と人権を重んじた生徒指導の推進。 5 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況の把握。		

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施する主な項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業と評価手法の研究 2 望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実 3 いじめ防止基本方針に基づく取組の実施 4 いじめへの対応など命と人権を重んじた生徒指導の推進 5 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況の把握
<p>自己評価結果について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護体験、医療系体験、看護医療系の図書の充実を図り、生徒の進路実現の一助とすることができた。 2 外部講師を招いて交通安全講話を行い、生徒の交通安全意識を高めることができた。 3 いじめアンケートを実施して生徒の状況把握に努めるとともに、スクールカウンセラーといった専門家との連携の強化に努めた。また、全職員での情報共有にも努め、教育相談の充実を図ることができた。
<p>今後の改善方策について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度取り組んだ主体的・対話的で深い学びを実現するための実践を分析し、そこから明らかとなった課題に取り組む。 2 大きな改革に関する情報発信を的確に行うとともに、3年間の見通しと各学年のねらいを明確にしたキャリア教育を展開する。 3 情報モラルの指導に力を入れるとともに、生徒指導上の問題に早期に対応できるよう、生徒情報の収集・共有に努める。 4 校内の連携強化により、いじめへの対応などが速やかに行える体制の確立に努める。 5 職員同士の積極的な声かけを図り、一部の職員に過度な負担がかからないような職場の雰囲気づくりに努め、長時間労働による健康障害を防止する。
<p>その他（学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者も教育相談を活用していることから、学校、スクールカウンセラーだけではなく、保護者ともよく連携して生徒たちを見守ってほしい。 2 最近では、大人の読書量が減っている。教職員が率先して、生徒たちの読書量を増やす取組を考えてほしい。 3 生徒たちの読書活動を活発にするためには、ビブリオバトルへの参加も効果的である。 4 メール配信システムも積極的に活用し、学校の教育活動の様子について保護者に発信してほしい。 5 防災訓練や講話の実施により、生徒たちの防災意識の一層の向上を図るべきである。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>構 成 学校評議員 新谷 裕（名古屋学芸大学健康栄養研究所：研究員） 平山 雅之（日進市立日進西中学校：校長） 浅田 幸三（日進市：浅田区長）、小名木 裕子（PTA：役員）</p> <p>校長、教頭、事務長</p> <p>評価時期 令和2年2月5日(水)</p>